

一般国道8号（南郷拡幅）改築工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

加賀市

熊坂花房砦跡

2013

石川県教育委員会
(財)石川県埋蔵文化財センター

くま さか けぶ そ とりであと
熊坂花房砦跡

2013

石川県教育委員会
(財)石川県埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は熊坂花房砦跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は石川県加賀市熊坂町地内である。
- 3 調査原因は一般国道8号（南郷拡幅）改築工事であり、同事業を所管する国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所が石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は石川県教育委員会が財団法人石川県埋蔵文化財センターに委託して平成18（2006）年度から、平成24（2012）年度にかけて実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書刊行である。
- 5 調査に係る費用は国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所が負担した。
- 6 現地調査は平成18年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者は下記のとおりである。
期 間 平成18年7月6日～同年10月30日
面 積 1,800㎡
担 当 課 調査部調査第2課
担 当 者 松山和彦（主幹）、立原秀明（主査）、谷内明央（主事）
- 7 出土品整理は平成22（2010）年度に実施し、調査部特定事業調査グループが担当した。
- 8 報告書の作成は平成23（2011）年度に実施し、調査部国関係調査グループが担当した。執筆・編集は谷内明央（調査部国関係調査グループ）が行った。刊行は平成24年度に実施し、調査部国関係調査グループが担当した。
- 9 調査には下記の機関・個人の協力を得た。（五十音順、敬称略）
国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所
- 10 調査に関する記録と出土品は財団法人石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 11 本書についての凡例は下記のとおりである。
 - (1) 方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標Ⅷ系に準拠した。
 - (2) 水平基準は海拔高であり、T. P.（東京湾平均海面標高）による。
 - (3) 出土遺物番号は挿図、観察表、写真とで対応する。

目 次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	5
第1節 調査の概要	5
第2節 遺構と遺物	5

挿図目次

第1図 調査区の位置 (S = 1/2500)	2	第5図 遺構実測図2 (S = 1/20・40)	9
第2図 周辺の遺跡 (S = 1/25,000)	4	第6図 遺構実測図3 (S = 1/100・300)	10
第3図 遺構配置図 (S = 1/600)	7	第7図 遺物実測図	11
第4図 遺構実測図1 (S = 1/100)	8		

表 目 次

第1表 調査組織表	2	第3表 遺物観察表1	11
第2表 遺跡地名表	3	第4表 遺物観察表2	11

図版目次

図版1

図版2

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯（第1図）

国土交通省北陸地方整備局（以下、国交省）は、南北に細長い県土の一体化や観光周遊性の向上、災害時の代替性確保や交通渋滞の緩和を図るため、幹線道路の複数車線化を進めている。一方、石川県教育委員会文化財課（以下、文化財課）は開発事業と埋蔵文化財保護との調整を図るために事前に事業内容の照会をしている。

国交省は加賀市熊坂地内で一般国道8号線の拡幅工事を計画し、埋蔵文化財分布調査を文化財課に依頼した。その結果、調査区域の一部で周知の埋蔵文化財包蔵地熊坂花房砦跡（中世の砦跡）が確認された。文化財課は分布調査の結果を国交省に回答し、双方協議の結果、工事の影響が遺跡に及ぶ箇所について発掘調査対象とすることで合意がなされた。

国交省は文化財課に発掘調査を平成18年度に依頼し、文化財課は加賀市川原町埋蔵文化財センター（以下、センター）に発掘調査を委託した。調査は調査部調査第2課が担当した。

第2節 調査の経過

現地調査

平成18年6月15日に国交省・文化財課・センターとの間で現地協議が行われた。細長い尾根上の調査のため、特に物の落下や転落を防ぐための安全対策の徹底が確認された。また、排土置場や工事の関係上、尾根の先端部から調査に着手し、調査を終えた箇所から順に引き渡していくことも確認された。7月6日から地形測量、11日から転落防止用の防護ネットの設置、18～25日に表土除去を行った。8月1日から遺構検出・掘削を行い、順次写真撮影・実測を行った。17日に1回目の空中写真測量を行い、その調査区は先行して24日に現地引き渡しを行った。21日から調査区中央部分（堀切状遺構周辺）の遺構検出・掘削に着手し、9月6日に2回目の空中写真測量を行った。8日から残りの調査区（古墳周辺）の遺構検出・掘削を開始した。その結果、現況で確認していた隆起状の高まりが古墳であることが明らかとなった。10月12日に3回目の空中写真測量を行い、13～20日に補足調査を行った。23日に現地引き渡しを行い、同月30日に機材を撤収して現地作業を完了した。

出土品整理

平成22年度に文化財課はセンターに出土品整理を委託し、10月25日から26日にかけて行った。整理内容は遺物の記名・分類・接合、実測・トレースと遺構実測図のトレースであり、国関係調査グループが担当した。

報告書刊行

平成24年度に文化財課はセンターに報告書刊行を委託し、国関係調査グループが担当した。



第1図 調査区的位置 (S=1/2,500)

第1表 調査組織表

調査期間	平成18年7月6日～同年10月30日	整理期間	平成22年10月25日～同年同月26日
調査主体	財団法人石川県埋蔵文化財センター (理事長 山岸 尚)	整理主体	財団法人石川県埋蔵文化財センター (理事長 竹中 博樹)
総 括	前田 憲治 (専務理事)	総 括	橋本 義 (専務理事)
事 務	山下 淳敏 (専務局長)	事 務	栗山 正文 (専務局長)
総 務	立崎 仁孝 (総務課長)	総 務	浅香 順雄 (総務グループリーダー)
経 理	熊谷 省吾 (経理課長)	整 理	三浦 純夫 (所長)
調 査	谷内祐吉司 (所長)		藤田 邦雄 (関係調査グループリーダー)
	高尾 修平 (調査部長)	組 長	谷内 明夫 (関係調査グループ主任事)
	西野 秀和 (調査第2課課長)	作 業	河村智子、松田智恵子、中尾望雄、小林多恵子、前田すみ子、朝倉佳子、北 寿幸
組 長	松山 和彦 (調査第2課主幹)		
	立原 秀明 (調査第2課主幹)		
作 業	谷内 明夫 (調査第2課主幹)		
	谷口美智子、高瀬昌男、原村 尚、杉分昭雄、立野寿雄、 資料千太郎、穴田一、越 秀夫、安城進一、渡野定之、 金井福富、橋本政男、生田守正、赤口英次、村田浩志、 善多貞夫、下出勝紀、西出正治、加賀正敏、中田和彦、 西山外秀男		

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境 (第2図)

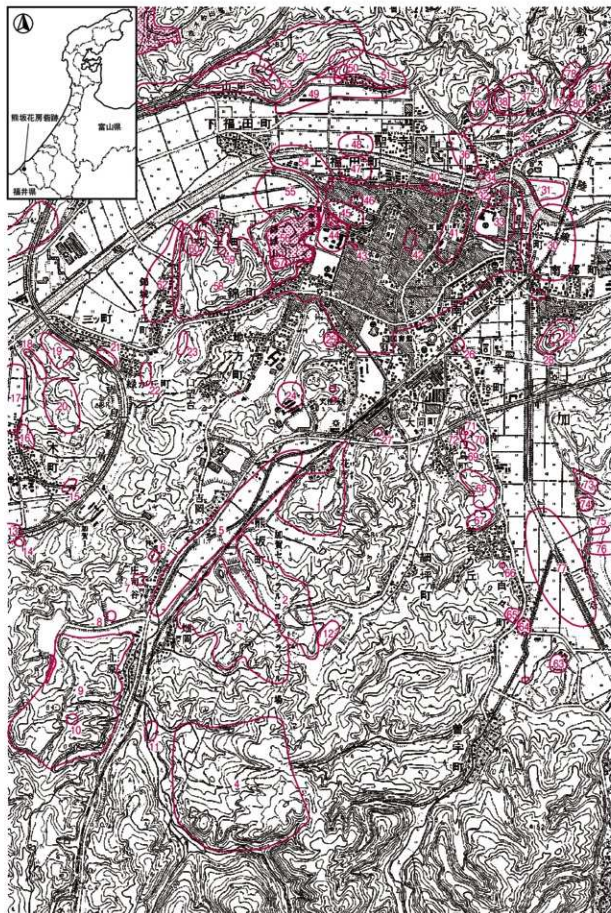
熊坂花房砦跡は石川県加賀市熊坂町地内に所在する。加賀市は石川県の南西端に位置し、東は小松市、西・南に福井県、北で日本海と接する。橋立丘陵・月津台地・江沼丘陵に囲まれた江沼盆地の西部を大聖寺川が東西に流れており、その支流の熊坂川によって形成された南北に細長い平野部の東側、北東に細長くのびる丘陵上に本遺跡は立地する。この丘陵には新生代第三紀中新世中期の花房凝灰岩層や細坪泥岩層が分布している。

第2節 歴史的環境 (第2図)

熊坂花房砦跡(1)の近くにある城跡・砦跡として、道状遺構2箇所・建物遺構1箇所が検出された熊坂首谷砦跡(2)、炭窯1基が検出された熊坂口之城跡(3)、方形焼成土坑1基・円形焼成土坑7基・炭窯1基・土坑13基・壙状溝3条が検出された熊坂黒谷城跡(4)の3遺跡が知られている。各遺跡では曲輪状削平段(平坦面)が多数検出されている。特徴としては、①尾根を分断する堀切がほとんどない。②尾根頂部はほとんど自然地形。③切岸の暖かな平坦面が多く法面も緩いものが多い。④盛土で構築された土塁がない等が挙げられる。つまり、自然地形を活かして人工的改変をほとんど加えていない遺構が多い。各遺跡で近世以降の陶磁器類が出土しており、熊坂黒谷城跡では、戦国期の越前焼の壺1点とすり鉢2点が出土している。

第2表 遺跡地名表

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	熊坂花房砦跡	中世	28	南郷城跡	室町	55	萩生A遺跡	奈良~中世
2	熊坂首谷砦跡	中世	29	南郷八幡神社古墳群	古墳	56	大聖寺城跡	近世
3	熊坂口之城跡	中世	30	敷地鉄橋遺跡	奈良・平安	57	蒲が丸堡跡	安土桃山
4	熊坂黒谷城跡	中世	31	永町ガマノマガリ遺跡	弥生~中世	58	津葉城跡	室町
5	熊坂川吉岡遺跡	奈良・平安	32	大聖寺高等学校遺跡	縄文~平安	59	萩生慈光院跡	中世
6	新熊坂願社寺跡	近世	33	永町遺跡	奈良・平安	60	萩生古墳群	古墳
7	旧熊坂願社寺跡	中世	34	藤ノ木遺跡	縄文~近世	61	萩生願成寺跡	中世
8	庄司宮跡	近代	35	敷地天神山遺跡	縄文~近世	62	萩生B遺跡	弥生~古墳
9	熊坂北原城跡	中世	36	岡遺跡	縄文~平安	63	三谷B遺跡	縄文
10	熊坂西子谷首塚	中世	37	金ヶ竹城跡	室町	64	百々遺跡	古墳
11	熊坂徳音寺跡	中世	38	坊山長者屋敷遺跡	不詳	65	百々庵寺・館跡	室町・戦国
12	細坪炭窯跡	不詳	39	坊山遺跡	縄文中期	66	百々古墳	古墳
13	三木B遺跡	古墳前期	40	麻呂遺跡	不詳	67	三谷E古墳群	古墳
14	石城の尾古墳	古墳	41	耳山遺跡	古墳~平安	68	三谷D古墳群	古墳
15	三木C遺跡	奈良・平安	42	鷹匠町遺跡	古墳	69	三谷C古墳群	古墳
16	三木E遺跡	古墳	43	八道間遺跡	奈良~中世	70	三谷A1号墳	古墳
17	三木だいもん遺跡	縄文~中世	44	大聖寺彦部跡	近世	71	三谷B1号墳	古墳
18	三木古墳群	古墳	45	番場町遺跡	奈良・平安	72	細坪古墳群	古墳
19	三ツ塚跡	不詳	46	上福田春日神社遺跡	平安	73	三谷田古墳群	古墳
20	藤林院跡	中世	47	上福田C遺跡	縄文	74	三谷G1号墳	古墳
21	三ツ町B古墳群	古墳	48	上福田B遺跡	奈良・平安	75	三谷F1号墳	古墳
22	三ツ町A古墳群	古墳	49	畑遺跡	縄文~平安	76	三谷遺跡	弥生~古墳
23	鐘町古墳群	古墳	50	畑古墳群	古墳	77	三谷川遺跡	奈良・平安
24	大聖寺実業高等学校遺跡	縄文・平安	51	無楽寺跡	中世	78	敷地A古墳群	古墳
25	神明町古墳群	古墳	52	畑城跡	南北朝	79	敷地B古墳群	古墳
26	幸町遺跡	古墳	53	下福田古墳群	古墳	80	敷地C1号墳	古墳
27	大同古墳	古墳	54	上福田A遺跡	不詳	81	敷地団地遺跡	縄文・古墳



第2図 熊坂花房翁跡と周辺の遺跡 (S = 1/25,000)

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要 (第3図)

調査の方法と層序

表土除去前に地形測量を実施した。細長い調査区なので、尾根の方向に沿ってグリッド名を付し、10mごとに1～13区まで設定した。層序は表土→地山と単純だが、斜面部についてはその間に流土が入る。調査区は稲架や鉄塔、山道造成等による削平や攪乱の影響が多く見られた。

概 要

本遺跡は中世の砦跡として登録されているが、調査の結果、検出した遺構は古墳・土坑（SK）2基・堀切状遺構・土塁状遺構・平坦面であり、砦跡との関連を特定できる遺構は確認できなかった。古墳は古墳時代前期前半以降、土坑は18世紀以降のものと判断した。古墳から土師器の壺や管玉、土坑から京・信楽の陶器碗が出土した。そのほかに石匙や須恵器の坏、肥前の磁器碗が出土している。

第2節 遺構と遺物 (第4～7図)

古墳 (1号墳)

1号墳は調査区南西端の11～13区に位置する。検出高26.5～27.5m・高さ1mを計測し、埋葬施設と周溝の位置関係から、径10mほどの円墳と推定できる。表土が南北トレンチ①の層1、墳丘盛土は南北トレンチ②の層1～7と東西トレンチ①の層1・2と東西トレンチ②の層1～6、炭化物層が南北トレンチ②の層8と東西トレンチ①の層3と東西トレンチ②の層7である。トレンチの断面から、墳丘の東半部では盛土が薄く、西半部は厚いことがわかる。盛土は黄白～黄褐色粘質土や砂岩を主体とする地山ブロックを含むことが多い。炭化物層は旧表土を燃やしたものと判断した。つまり、草木を焼き払い、地山を削り出し、西側の低いところに土を盛って墳丘を造成したものと考えられる。

埋葬施設は墳丘頂部からやや北西寄りに位置し、山道の造成により北～西部が失われていた。隅丸長方形を呈し、検出高27.2m・長径195cm以上・短径105cm以上・深さ10cmを計測する。埋土は地山ブロックと炭粒を含む、ややしまりの弱い粘質土による単一層である。南西端付近30cmほどの範囲から緑色凝灰岩製の管玉が17点出土した。長さ20～25mm・幅6～6.5mm・穿孔径2.5mm前後が多く、長さ35.5mm・幅14.5mm・穿孔径4.5mmのもの（5）が1点出土している。穿孔は上下両面から施されていた。管玉の出土状況から被葬者は頭部を西側に向けていた可能性がある。埋葬施設下の旧表土から頁岩製の石匙（4）が出土した。幅5.2cmと横に長く、刃部は片面、つまみは両面に加工されている。

墳丘の北東部で周溝を検出した。墳丘西部は山道造成等による攪乱を受けていた。南東部は周溝の痕跡すら確認できず、平野部から見て死角となる墳丘の背後では周溝が掘られなかった可能性が高い。検出高26.7～27m・幅1.3m・深さ60cmを計測する。埋土は茶褐色粘質土を主体とし、第5図の断面では層1～4が周溝埋土、層9が周溝掘削前の堆積土、層5・6～8・10が地山となる。層9から土師器の壺（1）が出土していることから、周溝の時期はそれよりも新しいものと判断できる。この壺は頭部から口縁部にかけて2回接合させる、いわゆる二重口縁壺である。外傾する口縁部下半と外反する口縁部上半をもち、内外面にミガキが施されている。体部片も出土しているが口縁部と接合せず、

図化していない。時期は古墳時代前期前半と考える。

また、周溝外の北東側で須恵器の坏（2）が出土した。口縁の受部は短く内傾しており、胎土に黒色粒が極少量混じる。時期は6世紀後半と考える。地形や遺物の出土状況から判断して、1号墳とは別の古墳が存在していた可能性がある。

その他の遺構

S K01は焼土坑で、11区に位置する。楕円形を呈し、検出高24.7m・長径1.5m・短径85cm・深さ30cmを計測する。埋土は暗灰色粘質土を主体とする。断面の層5は被熱した地山ブロックを多く含む。層6は地山の砂岩礫そのものが被熱したものと考えている。壁面は被熱していない。

S K02は焼土坑で、13区に位置する。円形を呈し、検出高25.6m・径80cm・深さ25cmを計測する。埋土は大きく2層に分かれ、断面の層1・2は地山ブロックを多く含み、層3・4は炭化物や焼土を含む。東壁面は3cmほどの厚みで被熱していたが、坑底は被熱しておらず、S K01と対照的である。京・信楽の碗（3）が出土した。高台は露胎で灰軸が施されている。高台径4cmを計測し、畳付に幅1mmの面取りが施されている。時期は18世紀以降と判断した。

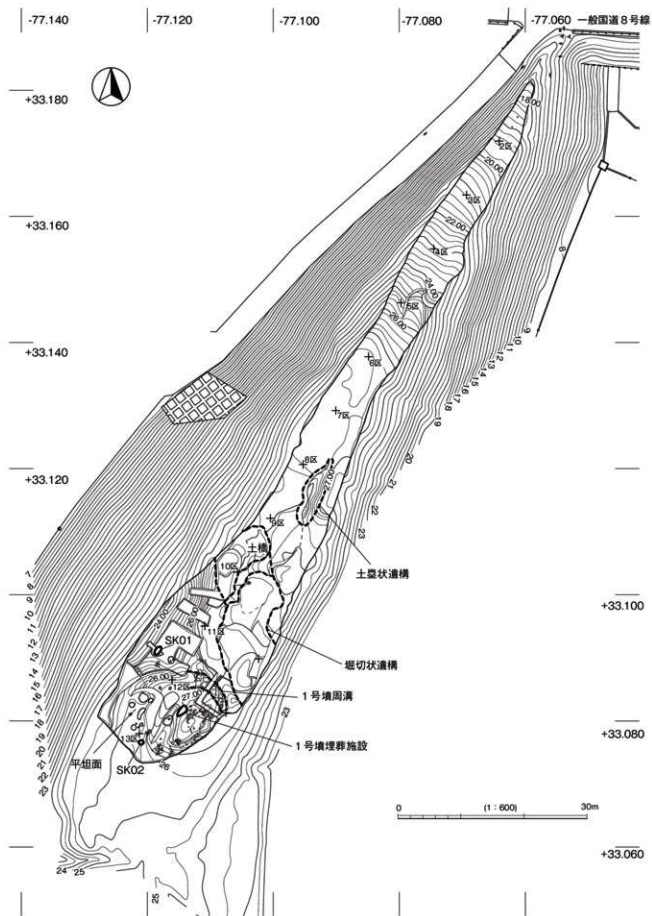
堀切状遺構は表土除去前の地形測量の段階で確認できた溝状の遺構である。9～12区に位置し、長さ25m以上・幅10m・深さ30cm～1.1mの溝が尾根を斜めに切るようにして南北方向にのびる。断面k-1ラインでは地山が土橋状に削り出されており、溝を渡る際に利用されたものと考え。底面は場所によって数十cmの高低差が認められ、地山の砂岩礫が露出していた。その節理方向は溝がのびる方向と同じであり、尾根を分断するように掘られていないことを考慮すると、堀切というよりはむしろ採石目的で掘られたものと考え。この砂岩礫と同質の石材が熊坂庄司谷窯跡で出土（砂質凝灰岩と報告されている）しており、そこでは窯体覆屋の礎石に使われている。

土塁状遺構は表土除去前の地形測量の段階で確認できた遺構である。8区に位置し、地山を削り出す成形方法は近辺の城跡・砦と同様である。尾根と同じ方向に細長く10mほどのびており、検出高26.8～28.1m・高さ1.3mを計測する。

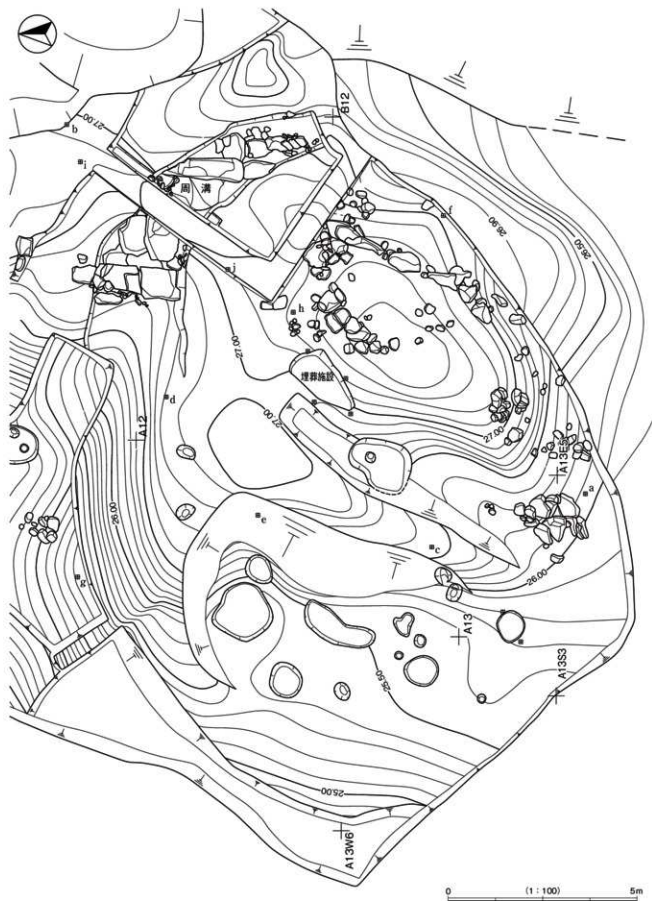
平坦面は表土除去前の地形測量の段階で確認できた遺構である。12～13区に位置し、7m×5mの範囲で造成された平坦面である。そこで焼土が混じる土坑やピットを検出した。深さ5～10cmと浅く、遺物も出土していないが、S K02と関連する遺構かもしれない。検出時に肥前磁器碗が3点出土した。見込五弁花や筒形の碗で、時期は18世紀後半以降と考える。

砦跡との関連

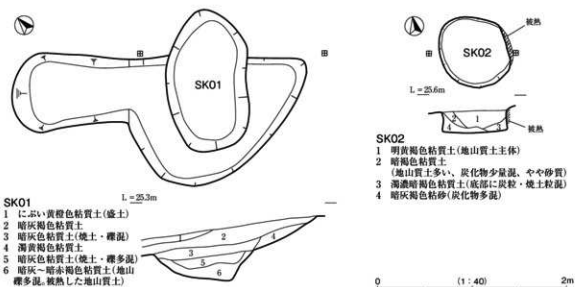
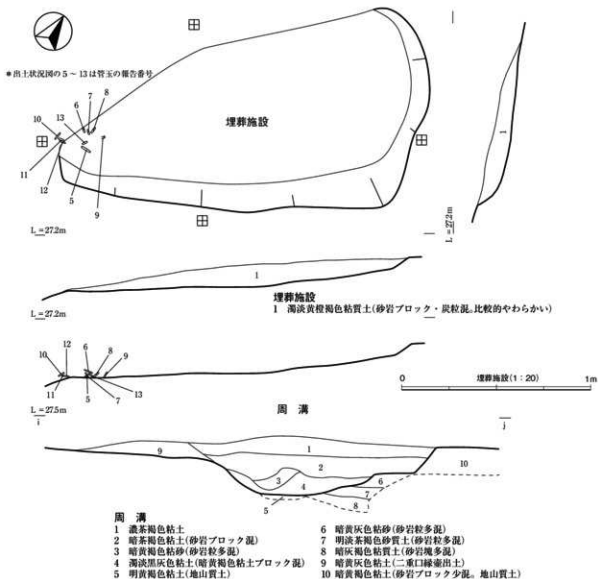
今回の調査区は、加賀市の作成した熊坂花房砦跡の縄張り（加賀市教委1995）における、北東へのびる細い尾根上にあたる。だが、検出した堀切状遺構や土塁状遺構、平坦面などは戦国期の砦に関連する遺構と判断するには至らなかった。遺構の検出状況や遺物の出土状況から判断して、山道造成や採石に伴う遺構と考えられる。



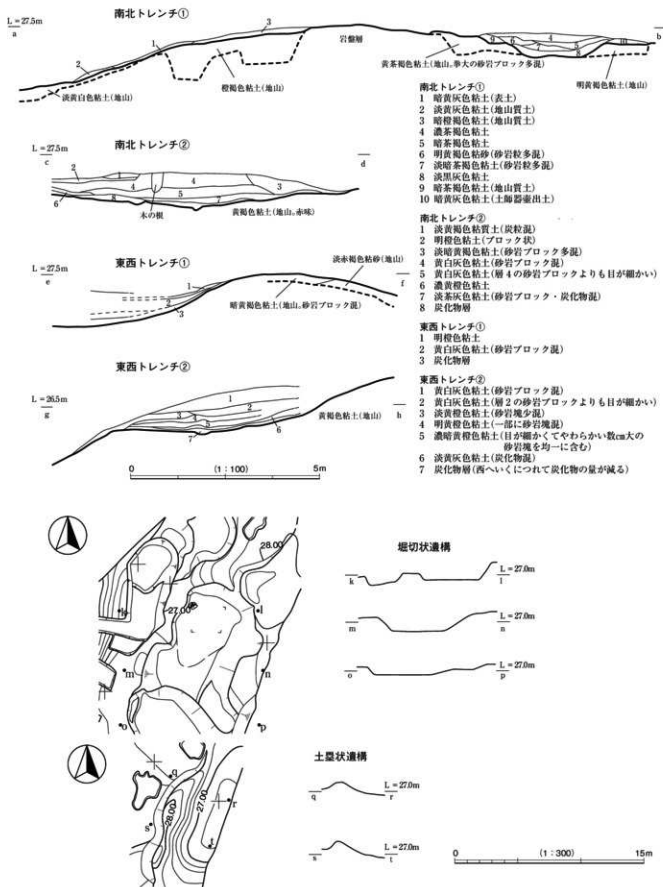
第3図 遺構配置図 (S = 1/600)



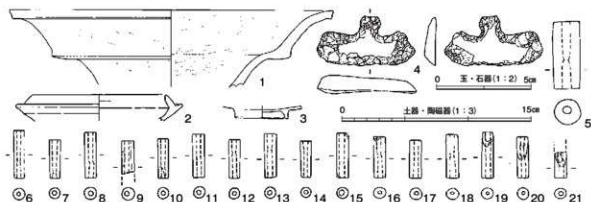
第4図 遺構実測図1 (S = 1/100)



第5図 遺構実測図2 (S = 1/20・40)



第6図 遺構実測図3 (S = 1/100・300)



第7図 遺物実測図

第3表 遺物観察表1

報告番号	実測番号	出土地点	種類	器種	口径 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	色調内面	色調外面	胎土	焼成	備考
1	D-1	1号墳周溝北側	土師器	壺	25.6	—	(6.1)	にじい・黄橙	明黄釉	粗砂多	良	二重口縁也
2	D-2	1号墳周溝北東側 (古墳外)	須恵器	杯	10.6	—	(2.1)	灰	灰	粗砂多、黒色粒少	良	
3	D-3	SK 2	京・信楽	碗	—	4.0	—	—	—	—	良	灰釉

第4表 遺物観察表2

報告番号	実測番号	出土地点	種類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備考
4	石 1	1号墳主体部下 田表土	石砲	26.0	32.0	10.0	9.70	頁岩	
5	玉 1	1号墳主体部	管玉	35.5	14.5	—	12.27	緑色凝灰岩	穿孔径4.5mm
6	玉 2	1号墳主体部	管玉	25.5	6.0	—	0.61	緑色凝灰岩	穿孔径2.0mm
7	玉 3	1号墳主体部	管玉	20.2	6.0	—	0.41	緑色凝灰岩	穿孔径2.5mm
8	玉 4	1号墳主体部	管玉	24.2	6.0	—	0.53	緑色凝灰岩	穿孔径2.5mm
9	玉 5	1号墳主体部	管玉	(17.7)	6.4	—	0.41	緑色凝灰岩	穿孔径2.5mm
10	玉 6	1号墳主体部	管玉	21.0	5.7	—	0.42	緑色凝灰岩	穿孔径2.5mm
11	玉 7	1号墳主体部	管玉	23.2	6.2	—	0.55	緑色凝灰岩	穿孔径2.0mm
12	玉 8	1号墳主体部	管玉	20.3	6.2	—	0.45	緑色凝灰岩	穿孔径2.0mm
13	玉 9	1号墳主体部	管玉	23.4	6.4	—	0.55	緑色凝灰岩	穿孔径2.5mm
14	玉 10	1号墳主体部	管玉	19.5	6.0	—	0.36	緑色凝灰岩	穿孔径2.5mm
15	玉 11	1号墳主体部	管玉	23.5	6.4	—	0.54	緑色凝灰岩	穿孔径2.5mm
16	玉 12	1号墳主体部	管玉	22.0	6.5	—	0.46	緑色凝灰岩	穿孔径2.5mm
17	玉 13	1号墳主体部	管玉	20.0	6.5	—	0.46	緑色凝灰岩	穿孔径2.5mm
18	玉 14	1号墳主体部	管玉	23.0	6.9	—	0.57	緑色凝灰岩	穿孔径3.0mm
19	玉 15	1号墳主体部	管玉	24.5	6.5	—	0.52	緑色凝灰岩	穿孔径3.0mm
20	玉 16	1号墳主体部	管玉	22.0	6.5	—	0.43	緑色凝灰岩	穿孔径2.5mm
21	玉 17	1号墳主体部	管玉	(14.0)	6.2	—	0.25	緑色凝灰岩	穿孔径2.5mm

報告書抄録

ふりがな	かがし くまさかけふそとりであと							
書名	加賀市 熊坂花房砦跡							
副書名	一般国道8号(南郷拡幅)改築工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	谷内明央							
編集機関	財団法人石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL 076-229-4477							
発行機関	石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	2013年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				m ²	
くまさかけふそとりであと 熊坂花房砦跡	石川県加賀市 くまさかけ 熊坂町	17206	06027	36度 17分 34秒	136度 18分 24秒	20060706 ～ 20061030	1,800m ²	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
熊坂花房砦跡	砦跡 古墳	古墳時代 中世	古墳、土坑、堀 切状遺構、土塁 状遺構、平坦面		土師器、須恵器、 陶磁器、石匙、 管玉		円墳1基を確認した。	
要約	古墳時代前期前半以降の円墳1基を検出した。土坑・堀切状遺構・土塁状遺構・平坦面を検出したが、戦国期の砦跡に関連する遺構と確定するには至らなかった。							



遺跡遠景 (南から)



1号墳 (南西から)



1号墳 (南西から)



1号墳 (北東から)



1号墳南北土層断面 (東から)



1号墳埋葬施設（北東から）



1号墳管玉出土状況（北西から）



1号墳周溝土層断面（北西から）



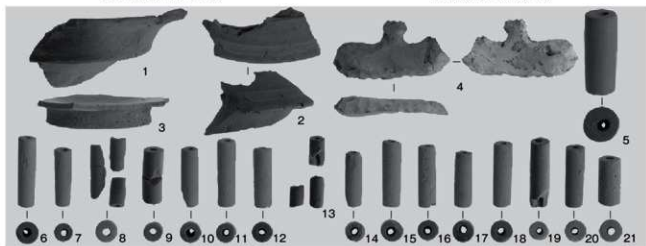
1号墳周溝土器出土状況（西から）



土壘状遺構（南西から）



掘切状遺構（南東から）



遺物写真

加賀市 熊坂花房砦跡

発行日 平成25(2013)年3月29日

発行者 石川県教育委員会
〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
電話 076-225-1842 (文化財課)

財団法人石川県埋蔵文化財センター
〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1
電話 076-229-4477
E-mail address mail@ishikawa-mabun.or.jp

印刷 ヨシダ印刷株式会社